

田 辺 遺 跡

— 国分中学校プール建設に伴う遺構編 —

1999年3月

柏原市教育委員会

は し が き

柏原市は、河内平野の南東部に位置し、市域のおよそ3分の2が山地や丘陵が占め、その間を縫って石川や大和川の二大河川があり府下でも有数の変化に富む自然が多い町です。

柏原市の中心部を流れる二大河川は、古来より途切れることなく流れる水流と夥しい土砂を河内平野へ運び広大な平野と耕地を誕生させていきました。また、交通の要衝として諸外国の表玄関として開港された大阪から畿内各地へ行き来する拠点となっています。古墳時代から奈良時代にかけての時期は、この地域が最終的な目的地とは言えませんが、人々の交流と共に様々な文物、生活習慣、最先端の技術が取り入れられ、金属器等生産の技術や古代寺院を建立するなど渡来文化の導入が顕著に行われ、色々な種類の文物や新しい生活習慣や制度を取り入れた地域であります。

当地区は、奈良時代創建の古代寺院国史跡『田辺廃寺』の直ぐ北側の丘陵上にあり、東側丘陵には河内国分寺、河内国分尼寺、同じ丘陵伝いに国史跡松岳山古墳等河内地域の著明な遺跡群が密集しています。

今回の調査の主な成果は、石器、土器類、金属器生産に伴う鉄滓、銅滓、鋳型、炉壁、瓦類があり、飛鳥時代から奈良時代にかけての大規模な金属器生産工房であることが明確になりました。この遺跡の性格や如何なる金属器を生産してどのような技術を駆使していたのかを知る重要な資料を得ることが出来ました。今後遺物の整理を進めその内容を明らかにしていきたいと思えます。

この調査に伴い、国分中学校や近隣の市民の方々、奈良国立文化財研究所、大阪市文化財協会を初め金属器生産を専門とする機関や人々にご指導と御協力を頂きました。今後とも柏原市の文化財にご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成11年3月

柏原市教育委員会
教育長 舟橋清光

例 言

1. 本書は、平成8年度柏原市教育委員会が公共事業として実施した埋蔵文化財の発掘調査で柏原市立国分中学校のプール建設に伴う事前緊急発掘調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は、柏原市教育委員会社会教育課文化係北野 重を担当者として、平成8年8月1日から同年10月7日まで実施したものである。
3. 調査の実施に際して下記の機関と方々から色々な御教示を頂きました。
奈良国立文化財研究所、大阪府教育委員会、橿原考古学研究所、滋賀県文化財保護協会、京都府埋蔵文化財調査研究センター、大阪文化財調査研究センター、大阪市文化財協会、堺市教育委員会、東大阪市教育委員会、枚方市文化財研究調査会、向日市埋蔵文化財センター、高取町教育委員会、美原町教育委員会、妙見山麓遺跡調査会、大阪芸術大学、天理大学、近つ飛鳥博物館、大阪市立博物館
一ノ瀬一夫、伊藤孝司、梅本康広、小林謙一、加藤俊吾、鹿野吉則、神崎 勝、櫻井忠彦、菅原章太、田中清美、富田真二、中井一夫、西口壽生、野島 永、古川与志継、花田勝広、松村恵司、森本 徹、山内紀嗣、山田隆一、山本 彰、吉田晶子
4. 調査の実施整理にあたり、下記の諸氏の参加、協力があった。
米田 博 橘谷和夫 柳谷好子 長西茂樹 川端 隆 安村俊史
石田成年 寺川 款 谷口京子 谷川洋史 阪口文子 槇原美智子
藤川富久子 尾野絹江 富田都子 浅野正子 乃一敏恵 有江マスマ
村口ゆき子 松本和子 山本允子 橋口紀子
5. 本書の編集、執筆は北野が担当した。
6. 本書で使用した方位と高さは特に表示しない限り磁北、T. P. である。

目 次

第1章 調査に至る経過	1
第2章 歴史的環境	3
第3章 調査の概要	8
第4章 まとめ	12

挿 図 目 次

図-1 柏原市位置図	1
図-2 調査地位置図	2
図-3 奥山遺跡遠景	3
図-4 松岳山古墳の調査	3
図-5 田辺古墳群	3
図-6 大里寺墨書土器	3
図-7 河内国分寺	4
図-8 竹原井行宮推定地	4
図-9 近隣主要遺跡地図	5、6
図-10 周辺の小字図	7
図-11 調査区位置図	8
図-12 調査区全体図	8
図-13 A区遺構図・断面図	9
図-14 A B・B C間畦断面図	9
図-15 B区遺構図・断面図	10
図-16 大溝平面図・断面図	10
図-17 遺物出土状況土器溜まり1	11
図-18 遺物出土状況土器溜まり2	11
図-19 拡張部位置図	11
図-20 拡張部上下層平面図	11
図-21 石敷遺構	11
図-22 田辺遺跡鉄滓出土地（松岳山古墳は除く）	13

図 版 目 次

- 図版－1 田辺遺跡全景航空写真（西側から）（北側から）
- 図版－2 調査区航空写真（南側から）（西側から）
- 図版－3 調査区全景（西側から）（東側から）
- 図版－4 大溝全景（南西側から）（南側から）
- 図版－5 A区調査区全景（南側から）（西側から）
- 図版－6 B区調査区全景（東側から）（西側から）
- 図版－7 C区調査区全景（東側から）（南側から）
- 図版－8 土坑1断面 集石遺構
- 図版－9 大溝全景 大溝掘削風景
- 図版－10 大溝東西方向断面 南北方向断面
- 図版－11 大溝底部 大溝底部遺物出土状況
- 図版－12 大溝土器出土状況（土器溜まり1）（土器溜まり2）
- 図版－13 遺物出土状況（炉壁）（瓦と炉壁）
- 図版－14 遺物出土状況（木片と炉壁）（鋳型）
- 図版－15 遺物出土状況（銅滓）（青銅素材）
- 図版－16 大溝上層出土遺物（花瓶）（獣骨）
- 図版－17 拡張部遠景 拡張部全景
- 図版－18 拡張部鋳型出土状況（上層）（下層）
- 図版－19 拡張部土層の断面剥ぎ取り（作業）（剥ぎ取り後）
- 図版－20 大溝掘削風景 中学生の見学風景

第1章 調査に至る経過

国分中学校には既存のプールが存在しているが、漏水や施設の老朽化が顕著になり、建替えを行うことになった。

柏原市は、平成6年3月14日、市立国分中学校内（国分本町7丁目1-20）の既存プールの改築に伴う文化財保護法第57条-3の通知書を提出した。柏原市教育委員会は、この場所が田辺遺跡の中央部にあり、金属生産工房跡の遺構や遺物が多数検出されている調査区と隣接していることから、発掘調査が必要である意見書を提出し、担当事業課である施設管理課と協議し、発掘調査を実施することとなった。発掘調査に必要な諸費用や期間は、次年度の予算化のため試掘調査が必要であるが、既存のプールがあること周辺場所に空き地もなくコンクリート舗装があるので実施できなかった。費用は、当地区の発掘調査事例の平均的な調査内容を想定し、予算要求した。発掘調査の期間は、プール工事完成期日を逆算して、プールを取り壊す工事が終了した直後の8、9月の2カ月間で発掘調査を実施することになった。平成7年度に発掘実施を計画したが、隣接する下水道管の埋設工事が計画通り進展しなかったことにより、当プールの改築に伴う排水管の敷設が出来ないため1年間遅滞し調査もそれに準じて延長した。

調査は、馬場建設株式会社と委託契約を結び実施した。調査の開始は、平成8年8月1日から始め、終了は同年10月7日まで実施した。上層部分の土層は機械により掘削し、遺構や遺物が出土する下層は人力により掘削した。発掘調査によって出る排土は、運動場の南西部の片隅に仮置した。調査の方法は、斜面地であることから北側の斜面上方の部分のみの調査に限定した。東西方向に長い方形区画を3区分に設定し、A～C区とした。調査途中、金属生産工房に関わる遺構が検出され、財団法人大阪市文化財協会の御好意により土層断面の剥ぎ取り作業を小林技師に技術指導して頂いて良好な資料を得た。また、金属器の生産工房に関わる調査を経験されている専門家の方々に調査指導を得るとともに国分中学校の先生と学生が遺跡見学を行い、文化財に興味を持つ学生が発掘調査の手伝いを得た。

調査期間中、集中豪雨により学校内の排水施設の不備もあり南側にある隣家に工事排水が流れ出て迷惑をおかけした。調査内容は、当初計画した土量が谷状の深い大溝を検出したことにより土量の増量変更を実施した。

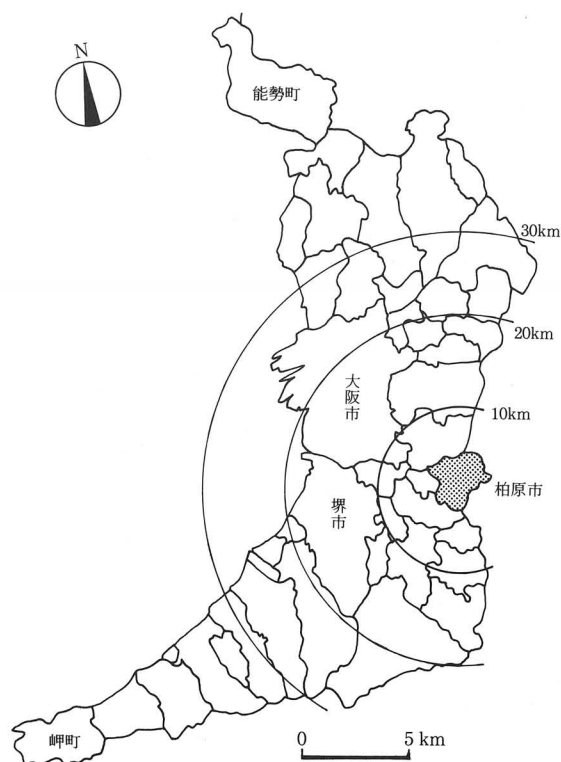


図-1 柏原市位置図

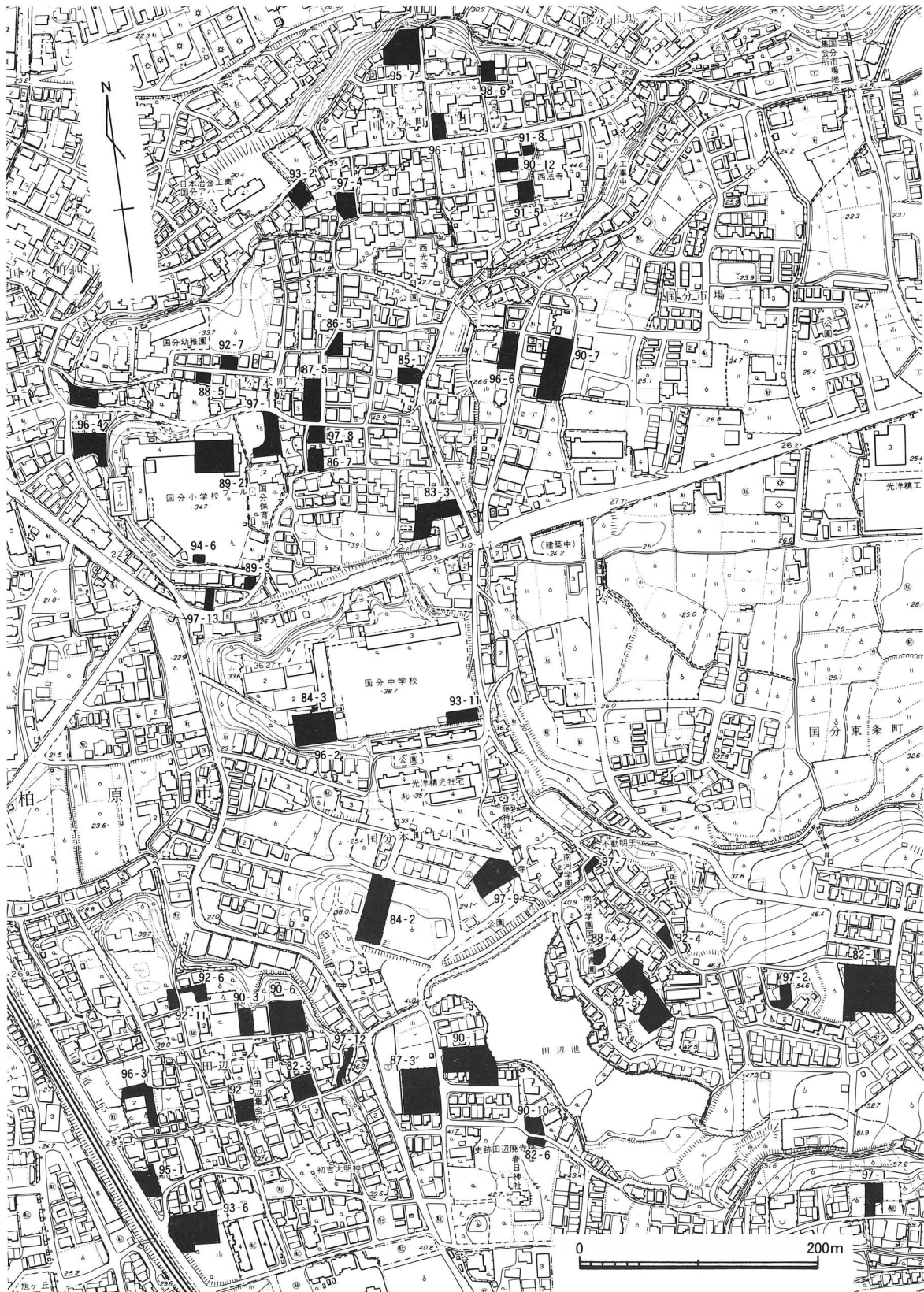


図-2 調査地位置図

第2章 歴史的環境

柏原市は、大阪府の東南部に位置し、大阪府と奈良県の間につながる生駒山地の麓にあたり、広ぼう東西方向6.60km、南北方向6.63kmを測る大阪府下30市中第19番目の面積（24.77km²）を擁する小都市である。行政区画は、奈良県と境に接する内陸部にあり、奈良県側は、北側から生駒郡三郷町、同郡王子町、葛城郡に属する香芝市の3市町があり、大阪府側には、北側から八尾市、藤井寺市、羽曳野市の3市に隣接して四周を囲まれた内陸部に立地している。

交通は、近鉄大阪線、近鉄道明寺線、JR大和路線、国道25、165、170線、西名阪自動車が高岡間を縫うように大阪と奈良を繋いでいる。何れの交通手段も古代からの歴史的な蓄積と代替する継続性があり、時代によって目的や手段が変化してきたのである。このように幾つもの種類の交通手段が行き交う市内の遺跡には、地理的、歴史的な必要性と蓄積が見られる。

この地域は、大阪府と奈良県との府県境につながる生駒山地と金剛山脈の麓地にあたり中新世後期から鮮新世前期（約2,000万年前）にかけての火山活動した二上山を中心として形成されている。この二上山の北部には、大和川に沿って東北東から西南西に向う断層帯があり、明神山系の北側で二上層群（定ヶ城累層など）と大阪層群の境をなしている。田辺遺跡の丘陵部は大阪層群の黄褐色粘土が遺跡全体に広がり粘性が強い土壌の特徴がよく表している。旧石器時代から弥生時代にかけて使用されたサヌカイト原石の産出地で、近辺の田辺遺跡や玉手山遺跡等にサヌカイト製石器が散見される消費遺跡とこれらを加工する生産遺跡、近年発見された奥山遺跡の採石土坑を持つ採石遺跡などがある。

石器時代の社会に供給するサヌカイト原石の原産地である二上山周辺の遺跡群に含まれ、近畿地方の集落遺跡から採石するために二上山を基軸として放射状に交通路が形成されたのである。生駒山地と金剛山脈との間隙に低く聳える牡嶽と雌嶽の山裾には、西側に大阪平野の遺跡群、東側には奈良盆地の遺跡群が広がり、両者の接点でもある大和川が果たした役割は言うまでもなく大きい。



図-3 奥山遺跡遠景



図-4 松岳山古墳の調査



図-5 田辺古墳群



図-6 大里寺墨書土器

古墳時代は、この地域には大和川の縁辺部に弥生時代から継続する船橋遺跡、国府遺跡、土師ノ里遺跡、大県遺跡など大規模な遺跡が密集している。船橋遺跡は、大和川の河床敷遺跡として著名で河内鑄銭所ではないかと考えられている遺跡である。国府遺跡は、河内の国衙である。土師ノ里遺跡は、土器や埴輪などの生産遺跡を持っている。大県遺跡は、周辺の大県南遺跡とも合わせ鉄製品やガラス製品を供給した大規模な生産工房を持っている。これらの遺跡群は、社会の最も重要な品物を生産することによって発展した遺跡群である。



図-7 河内国分寺

河内地域の前期の首長層の古墳群が松岳山古墳群や玉手山古墳群に造墓される。この地が選ばれたのは、大和川と石川に隣接した丘陵上にあり、交通の要所であることや大和川と石川の水利権を掌握した集団であったことを示している。中後期にかけて当地域の首長層の墓域はこの地域から離れ、古市古墳群に造営されるようになる。代わって中小規模の古墳が群を成して造られ、横穴古墳、横穴式石室、木棺直葬墳など基数が多くバラエティーに富



図-8 竹原井行宮推定地

んだ群集墳がある。大和川以南では玉手山丘陵に横穴古墳の安福寺横穴群、玉手山東横穴群があり、田辺遺跡へ伸びる丘陵上に横穴式石室を主体とする田辺古墳群や北峯古墳群がある。このように、当地域の集落遺跡と同等数の群集墳が存在し、その性格や地域性を示すものであろう。大和川対岸にも平尾山古墳群に代表される多くの後期の群集墳があり、犠牲的同族集団の墓域と想定されている。内部主体も横穴式石室、横口式石槨、横穴など基数と種類において他地域を圧倒している。

田辺古墳群は、集落遺跡のある丘陵部に隣接して築造された非常に小規模な古墳群である。発掘調査で出土した土器類から短期間の時期に造墓された古墳群である。田辺廃寺を建立した田辺史と関係した墓域と考えられている。しかし、本書で報告する金属生産集団との関連性も一考する価値がありそうである。飛鳥時代から白鳳時代にかけて大和川以北には河内六寺として名高い三宅寺、大里寺、山下寺、智識寺、家原寺、鳥坂寺があり、以南には時期が白鳳時代から奈良時代にかけての片山廃寺、原山廃寺、五十村廃寺、円明廃寺、田辺廃寺と河内国分寺、国分尼寺、東条尾平廃寺など狭い丘陵部に古代寺院が密集して建立される。河内六寺については近年の調査で大里寺、山下、鳥坂寺と書いた墨書土器が出土し、日本書紀に記載されている寺院名称の比定も確かなものになりつつあるが、国営の河内国分寺や国分尼寺と特定の氏族を持たない智識寺以外は全て地域の氏族が建立した寺院であり、寺院名や氏族名も明らかでなく今後の検証が必要である。主要伽藍の一部を調査した智識寺（大阪府教育委員会調査）、鳥坂寺（大阪府、柏原市調査）、片山廃寺（柏原市調査）、五十村廃寺（柏原市調査）、田辺廃寺（大阪府調査）、河内国分寺（大阪府調査）以外の寺院は瓦の出土や小字などから想定されている。田辺廃寺は、大阪府教育委員会が主要伽藍の調査を実施し、文献資料の田辺史の氏族関連の報告もおこなっている。

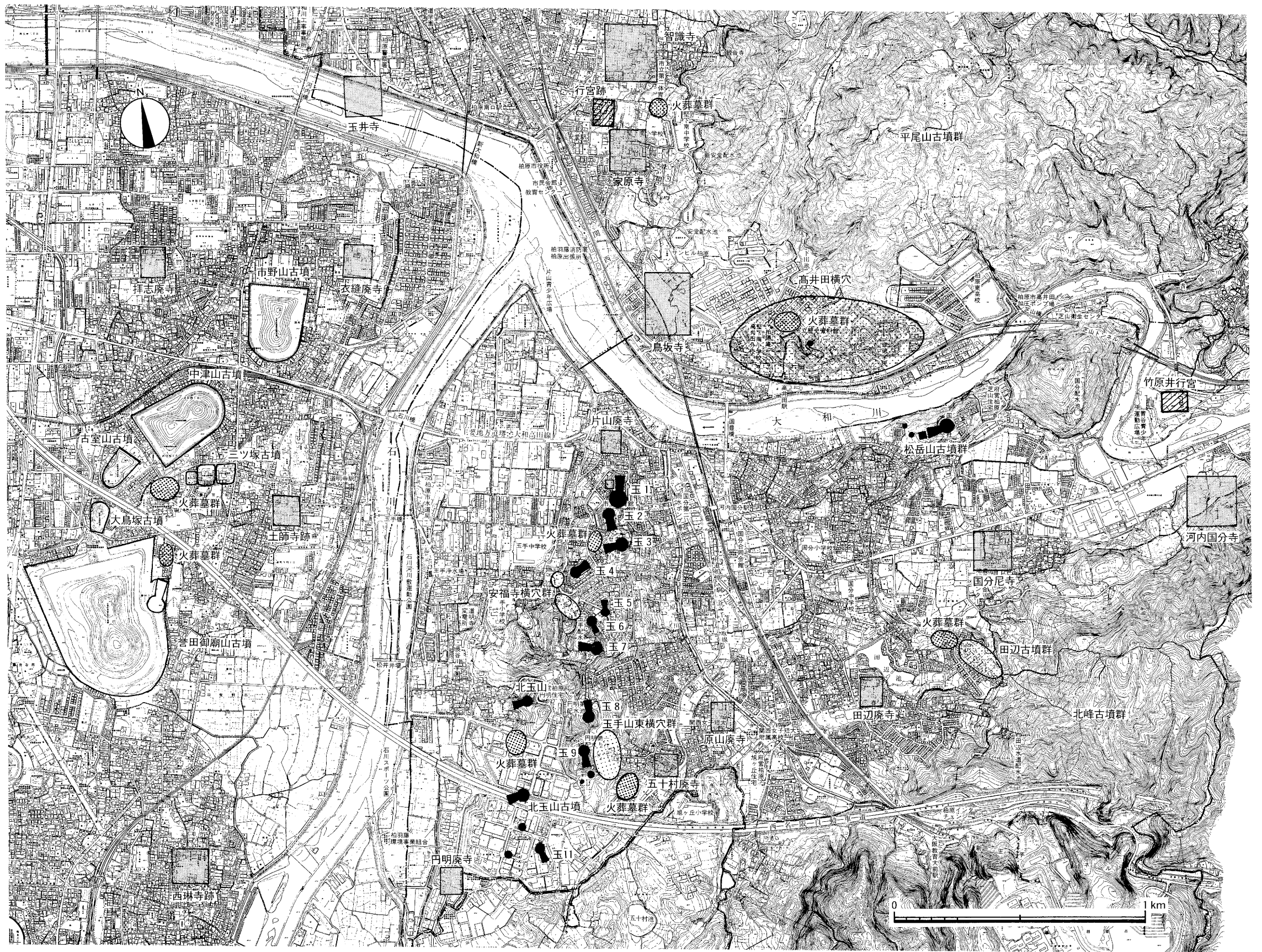


図-9 近隣主要遺跡地図

参考文献

- 『松岳山古墳の調査』大阪府教育委員会 昭和44年
- 『柏原市国分東条町河内国分寺発掘調査概要』大阪府教育委員会 昭和45年
- 『田辺廃寺発掘調査概要』大阪府教育委員会 昭和47年
- 『柏原市史』本編第2巻 昭和48年
- 『田辺古墳群墳墓群発掘調査概要』柏原市教育委員会 柏原市文化財概報1986-Ⅳ 1987
- 『柏原市埋蔵文化財発掘調査』柏原市教育委員会 柏原市文化財概報1984-I 1985
- 『田辺遺跡-国分小学校屋内体育館建替えに伴う-』柏原市教育委員会 柏原市文化財概報1989-V 1990
- 『奥山遺跡』柏原市教育委員会 柏原市文化財概報1998-VI 1999



図-10 周辺の小字図

第3章 調査の概要

発掘調査は、元プールの跡地の約350m²を調査した。昭和60年度の屋内体育館の発掘調査で飛鳥時代の鍛冶関係遺物が多数出土した地点に近い場所を中心として調査区を設定し、西側から3分割し、A、B、C区とし、工房が予想される部分を拡張して調査した。

遺構は、江戸時代の落ち込み、中世の集石遺構と飛鳥時代から奈良時代の大溝と建物ピットや土坑、石敷遺構の3時期の遺構を検出した。遺物は、江戸時代の羽釜、挿り鉢、瓦等、中世の仏花瓶、飛鳥時代から奈良時代は土師器、須恵器、瓦、轆羽口、鉄滓、銅滓、銅素材、鋳型、溶解炉壁等が出土した。

A区西側端部に落ち込み遺構と溝を検出した。半円形の大きな落ち込みに20~60cmの石が雑多に散らばり規則性は見られなかった。落ち込み内から挿り鉢や土釜等の土器類と瓦が出土した。その東側に約50cmの場所に南北方向の溝を検出した。幅は、0.3~0.5m、長さ10m、深さ約0.1mを測る。学校建設以前の建物関連の排水溝であろう。

B区は、土坑、ピット、大溝の一部を検出した。いずれも飛鳥時代から奈良時代にかけての遺構群である。プールの基礎や後世の攪乱で削平をうけた部分も多く全体の概要は明らかにできない。

C区には大溝、集石遺構を検出した。大溝は、南側の最も広い部分で15.5m、中程で10.0mの幅を測り、北側になるに従い狭く窄んだハの字状に広がる。深さは、北側で浅く1.15mを測り、中程で2.5m、南側で4.5mと深くなり南側の埋土は約15°の角度で傾斜している。弥生時代の

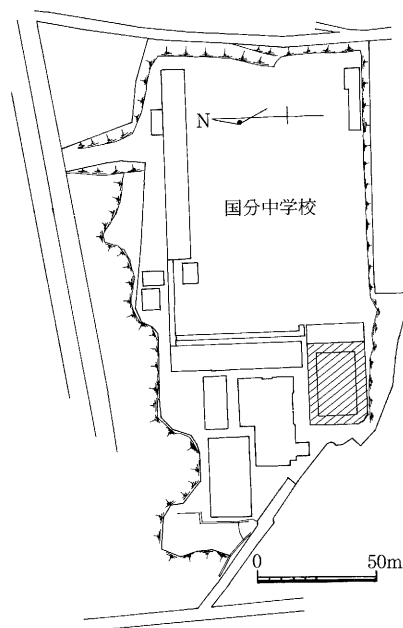


図-11 調査区位置図

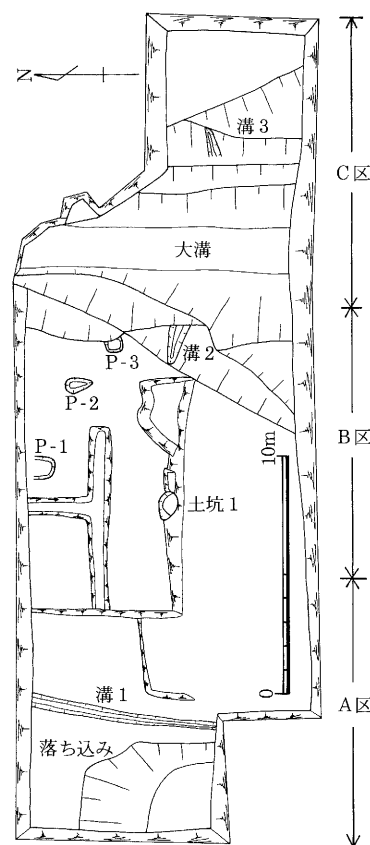


図-12 調査区全体図

遺物として大溝の埋土中からサヌカイトの剥片が出土している。大溝の中程で東西方向のセクションを設けた。その概略を述べる。最上層は元プールの基礎によって削平をうけており、南半部分で一部江戸時代から中世頃の遺物を含む土層が確認されている。セクション直ぐ南側で大溝の両側に内底部に向う小溝を検出した。工房端部の小溝でこの近辺で埋土の状況が大きく異なる。大溝より北西方向の平坦部にピットが確認され、工房に付属する建物の可能性がある。

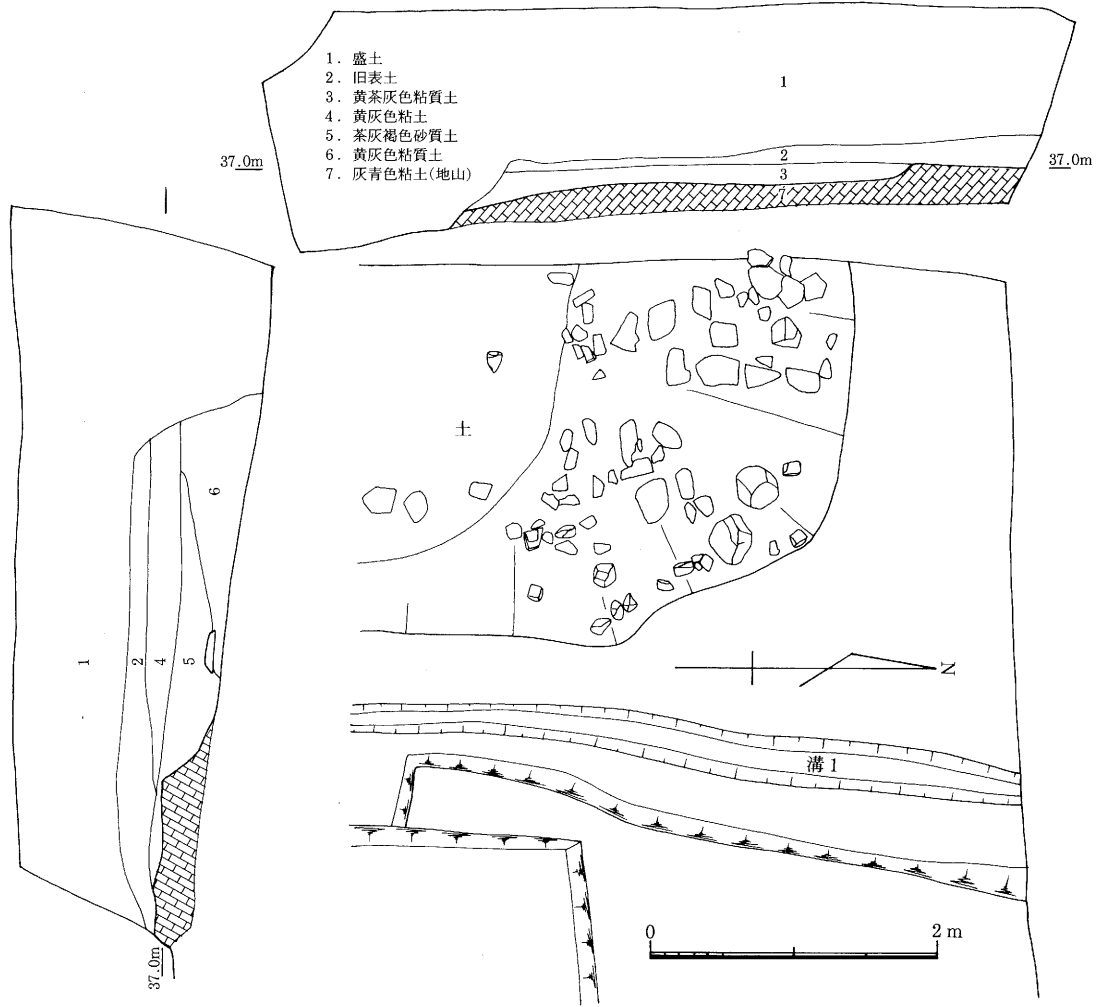


図-13 A区遺構図・断面図

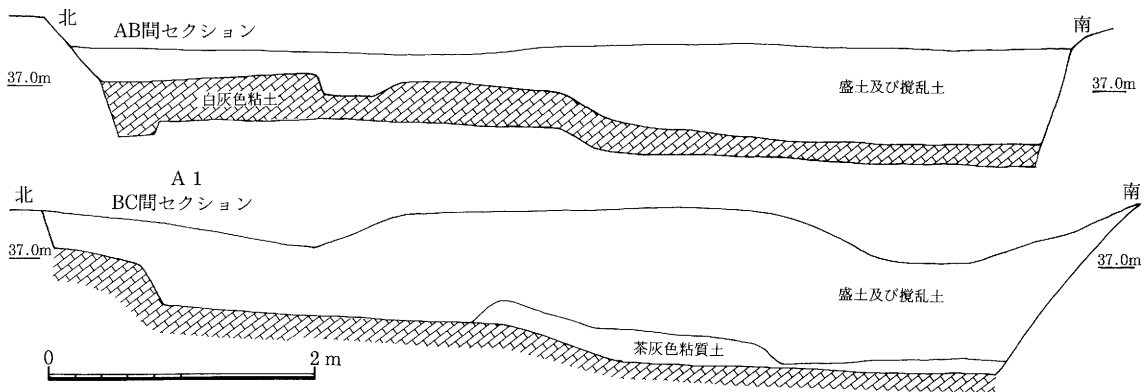


図-14 AB・BC間畦断面図

セクションの埋土は、上層は、第1層から第17層まであり、厚さ約2mを測る。埋没は主に北東方向から流れ込み人為的な整地が見られる。主要な埋土は、黄褐色粘土或いは粘質土が2~20cmの大きさのブロック土が混入している。版築状に層をなしている部分も確認され、埋没谷に平坦な作業場を拡張した様子が垣間見られる。溝中央部には幅の狭い溝状埋土（第1、2、7~9層）がある。下層は、第18層から第37層まであり、1.6mの深さがある。この大溝の埋土中層より下層にかけて鉄滓、銅滓、溶解炉や鋳型を含む鉄器と青銅器の製作工房関連遺物、寺院関係遺物が非常に沢山出土した。

鍛冶工房や青銅工房に隣接した排棄物の溝で、鉄滓と轆羽口、砥石、鉄製品として鉄釘が数本出土し、青銅製錬を行った炉壁や鋳型片、銅滓、大きな残片の銅素材も数多く出土し、後者に供伴して軒丸瓦や平瓦が出土している。

集石遺構は、大溝の東側肩部に東西向きに長さ2.7m、幅0.8mを測り、石は単層である。土器類はなく時期は江戸時代以降と考えられる。

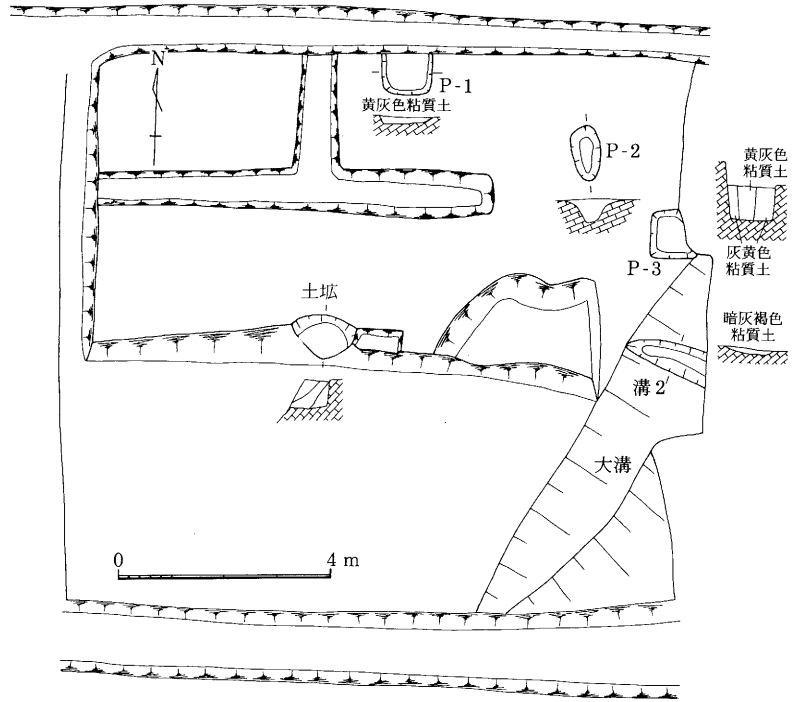


図-15 B区遺構図・断面図

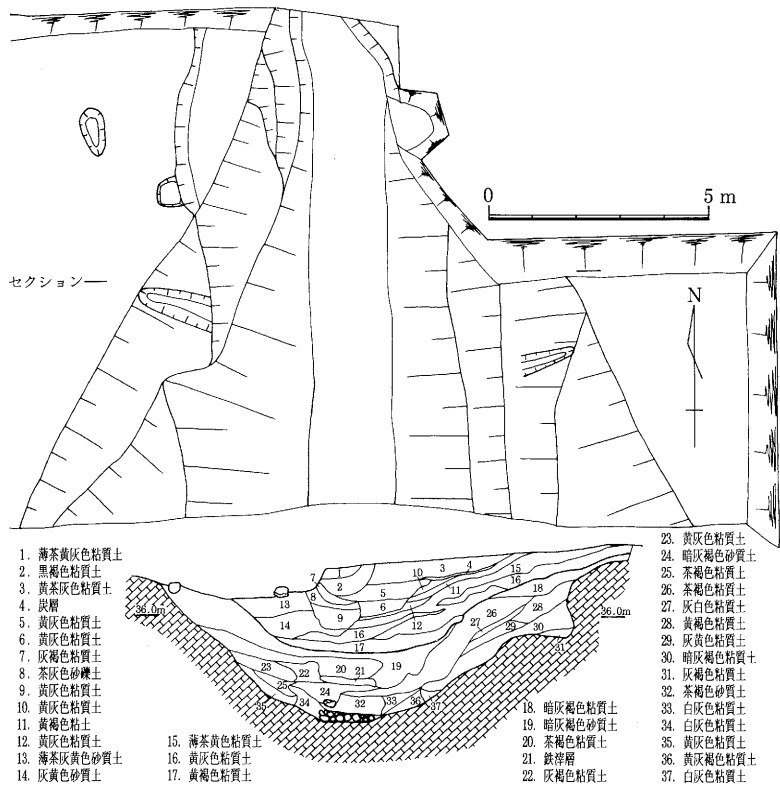


図-16 大溝平面図・断面図

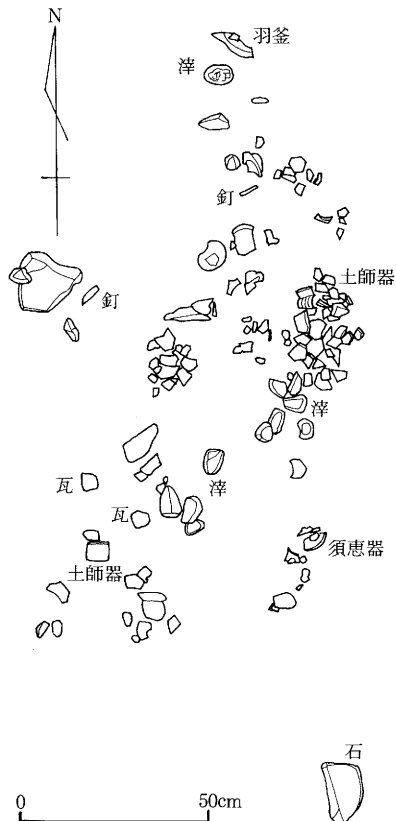


図-17 遺物出土状況土器溜まり1

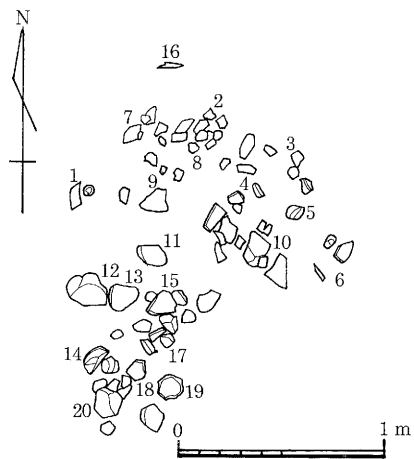


図-18 遺物出土状況土器溜まり2

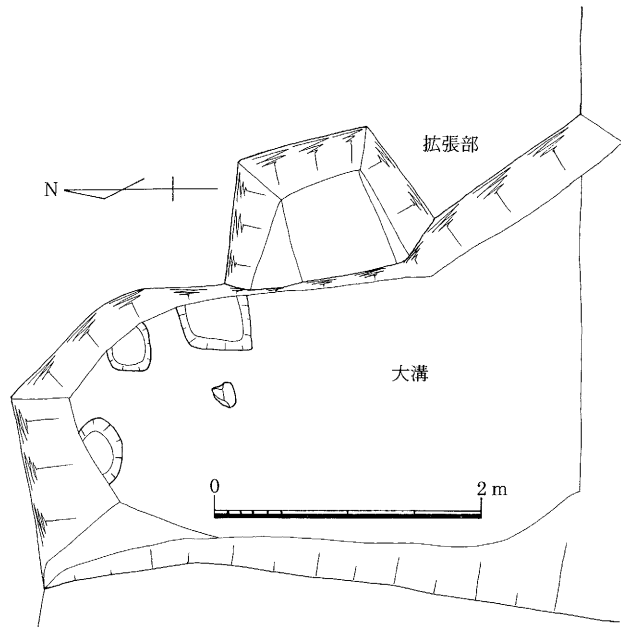


図-19 拡張部位置図

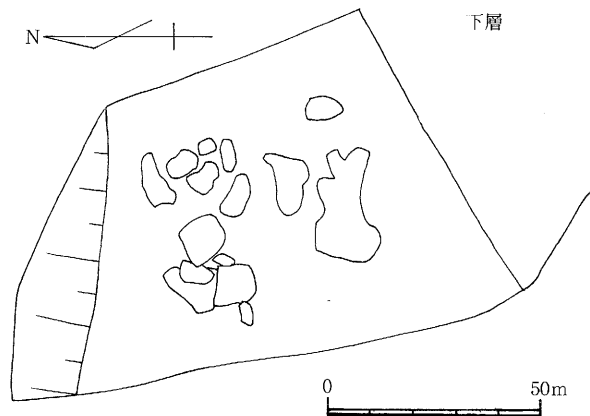
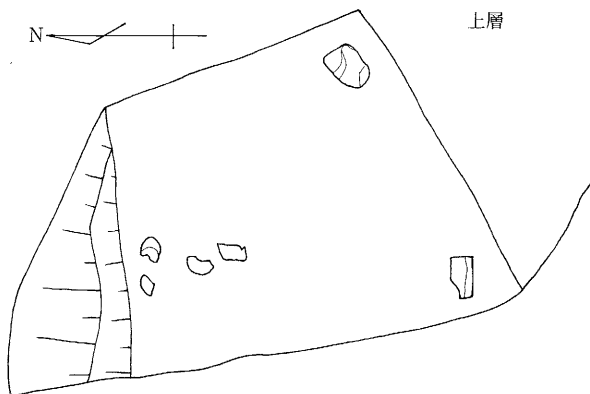


図-20 拡張部上下層平面図

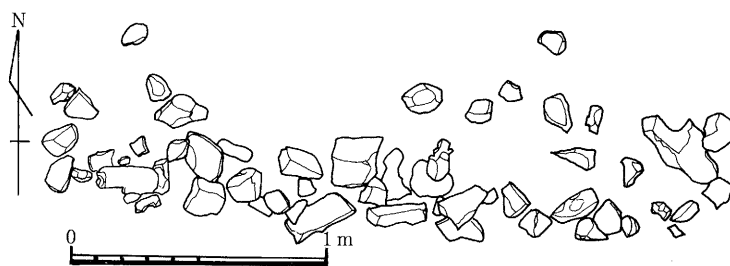


図-21 石敷遺構

第4章 まとめ

この地区は、亀瀬越道、長尾街道、竹ノ内街道など奈良県と大阪府を繋ぐ古道が密集し、街道沿いには河内国の主要な遺跡や古墳群、墳墓群がある。田辺遺跡は、この前2者の古道が通過する起点的な遺跡である。地形的な特徴を観察すると、明神山系の西北部から北側へ伸びる低位丘陵が遺跡内に2丘陵ある。西側の丘陵は、明神山系の西端部が北西方向に短く伸びている。田辺廃寺を中心部に置き、おいなり古墳や横穴式石室墳などの古墳が点在して、調査によって奈良期の建物群が発見されている。この丘陵は行政区画の大字田辺地区に属する。東側の丘陵は、大和川まで細く長い丘陵が続き、C字形に大きく彎曲している。南側の丘陵基部に田辺古墳群があり、中心部には河内国分寺瓦を焼成した2基の瓦窯、古墳時代中期の古墳が存在した痕跡と大規模な鉄器や青銅器生産工房跡がある。大和川に接している北部に松岳山古墳群があり、この丘陵には西暦677年紀年銘を持つ最古の火葬記録である青銅製の船氏王後墓誌が出土している。この丘陵は南側の国分本町と北側の国分市場に分かれる。遺跡に隣接して明神山系北麓の丘陵は大和川が直ぐ前面に迫り、北側向きの尾根筋が何条も短く伸びている。その尾根筋上には河内国分尼寺や河内国分寺が建立されている。この地区は国分東条町に属する。

今回の調査結果の内、飛鳥時代から奈良時代の遺構と遺物は田辺遺跡の性格や実態を知る非常に興味を引く内容である。特に鉄製品や青銅製品等の金属器等生産工房関連遺物は、柏原市の古墳時代中頃から奈良時代にかけて特徴的な遺跡の性格を示すものである。

金属器等とは、鉄製品、青銅製品、ガラス製品である。鉄製品は、大県遺跡群（大県遺跡、大県南遺跡、太平寺遺跡等）と田辺遺跡に大規模な生産工房があり、廃棄された鉄滓の量からみれば、河内地域だけでなくより広範囲な地区と豪族や共同体の鉄製品を供給したことが考えられる。青銅製品の生産工房は、これまで銅滓の出土は少量確認されている遺跡があるが、今回の調査によって始めて確認した工房で鋳型や製錬炉の破片と共に銅滓や銅素材も多量に廃棄されていた。飛鳥時代から奈良時代にかけて河内地区の古代寺院が建立された時期にあたる。ガラス製品は、大県南遺跡で鉄製品の鍛冶工房と共に鋳型の出土があり小玉が生産されている。鋳型は遺跡の広範囲の場所で点在して発見されており、一過性の生産ではないことが分かる。

今回の調査区では鉄製品の鍛冶工房が確認されたが、どのような種類の鉄製品を製造したのか不明である。青銅製品の工房跡は、製錬炉の炉壁や鋳型、銅滓、銅素材などの生産に伴う産業廃棄物が多数遺存している。鋳型の整理によってその生産した製品が判明する可能性があり、遺物の整理や分析を進めると青銅製品の生産技術や供給地についてその内容が明らかになると考えられる。

ここで金属器生産工房の実態や内容を検証するためどのように整理を行うか掲げて最後のまとめとしたい。

鉄製品生産の鍛冶工房については、遺棄された鉄滓、鑊羽口、砥石、鍛造剥片などの廃棄物を統計や観察を行い、鉄滓や出土鉄製品の化学分析によってその素材や生産技術の解明に役立てたい。

青銅製品の製造に伴う廃棄物である銅滓、製錬炉、鋳型の観察を行い、また、銅滓や青銅素材の化学分析によって含有成分を明らかにし、その素性や産地、どのような製品が製造されたのか、技術的な内容を含めて如何なる系譜で行われたのか検討したい。

最後に、金属器生産工房の廃棄物と共に多量の土器や瓦類が出土した。土師器や須恵器、瓦類の整理をすすめ実測と観察を行い、上下に分層して取り上げた遺物を時期的な検討を行うことによって金属器等の生産工房の実態解明の基礎としたい。

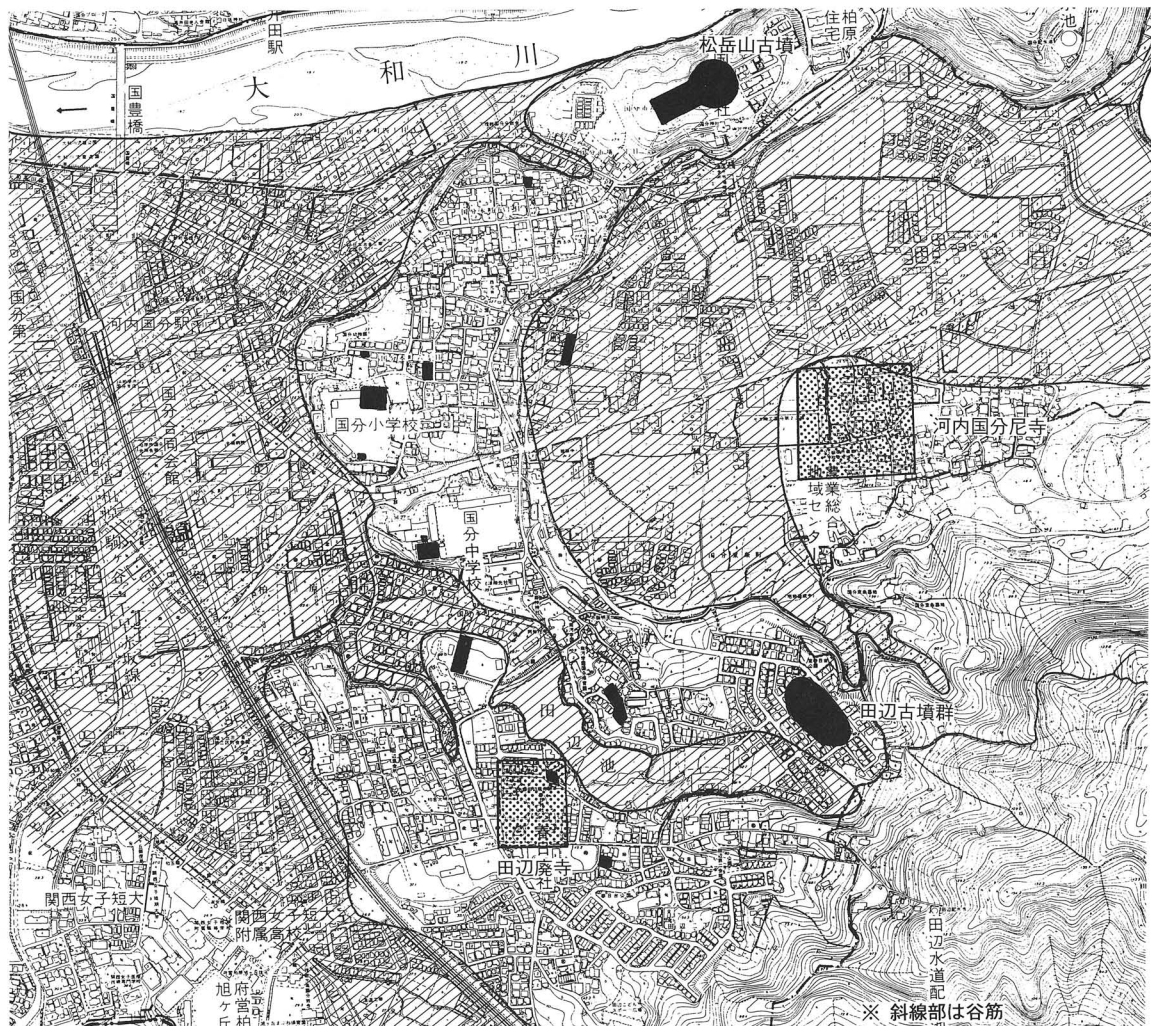


図-22 田辺遺跡鉄滓出土地（松岳山古墳は除く）

圖 版

図版一 田辺遺跡全景航空写真（西側から）（北側から）



西側から



北側から

図版二 調査区航空写真（南側から）（西側から）

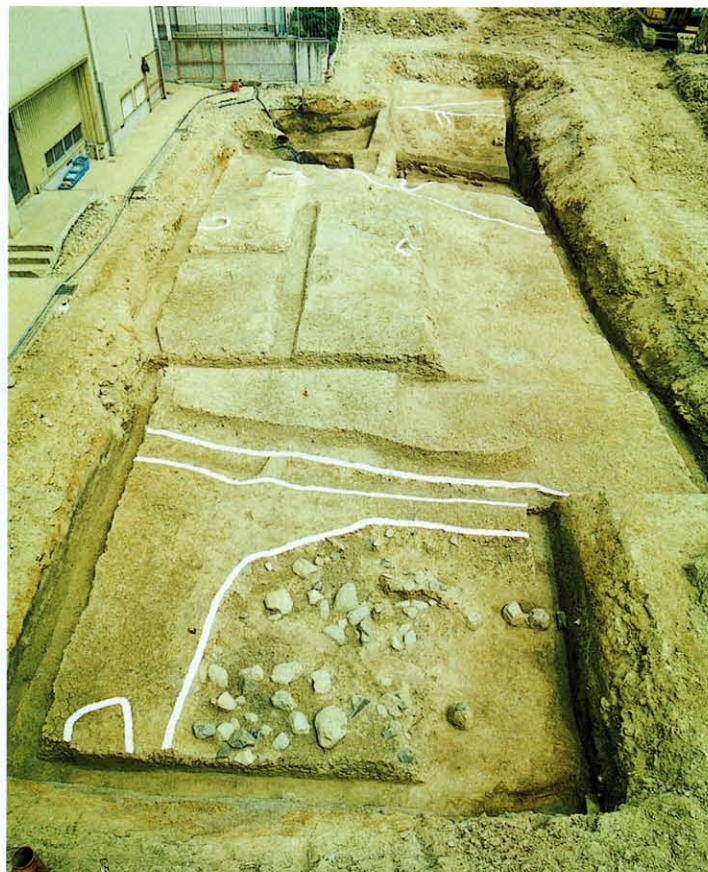


南側から



西側から

図版三 調査区全景（西側から）（東側から）



西側から



東側から

図版四 大溝全景 (南西側から) (南側から)



南西側から



南側から

図版五 A区調査区全景（南側から）（西側から）

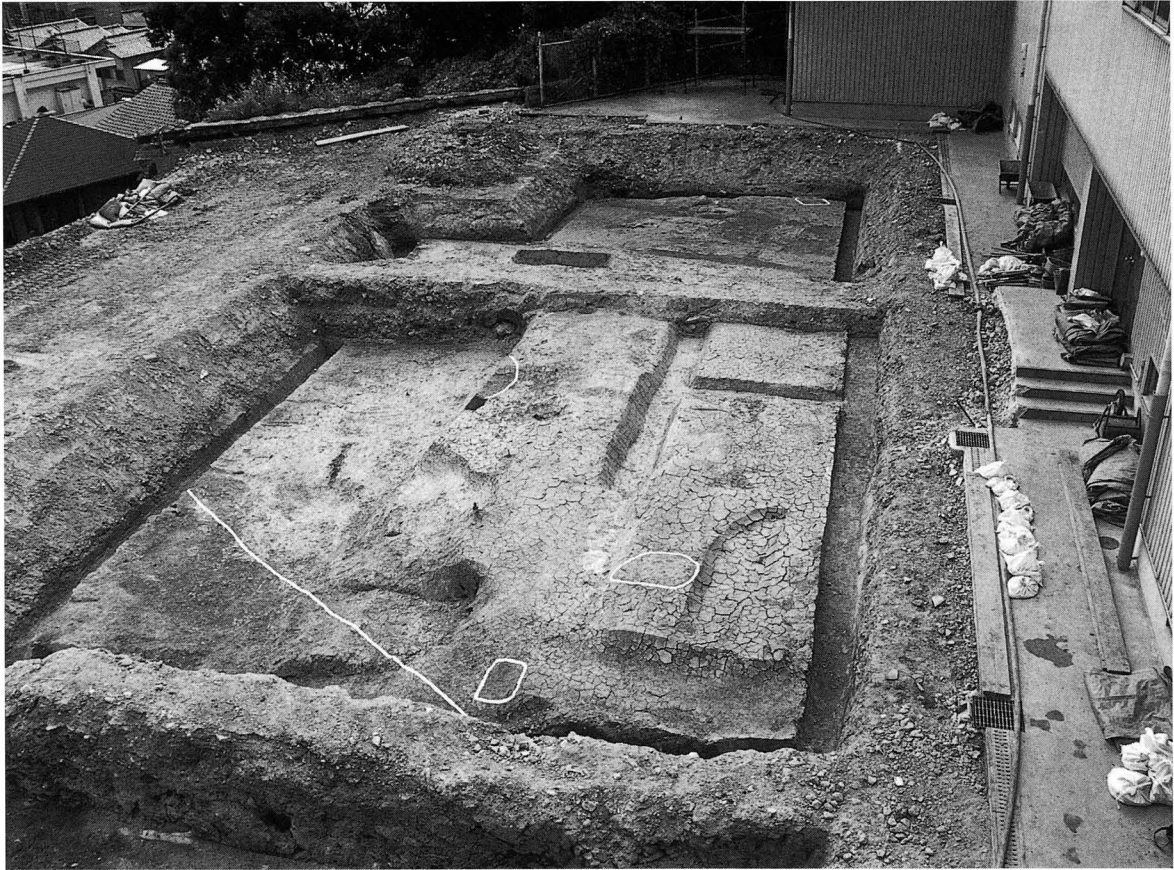


南側から



西側から

図版六 B区調査区全景（東側から）（西側から）



東側から



西側から

図版七 C区調査区全景（東側から）（南側から）

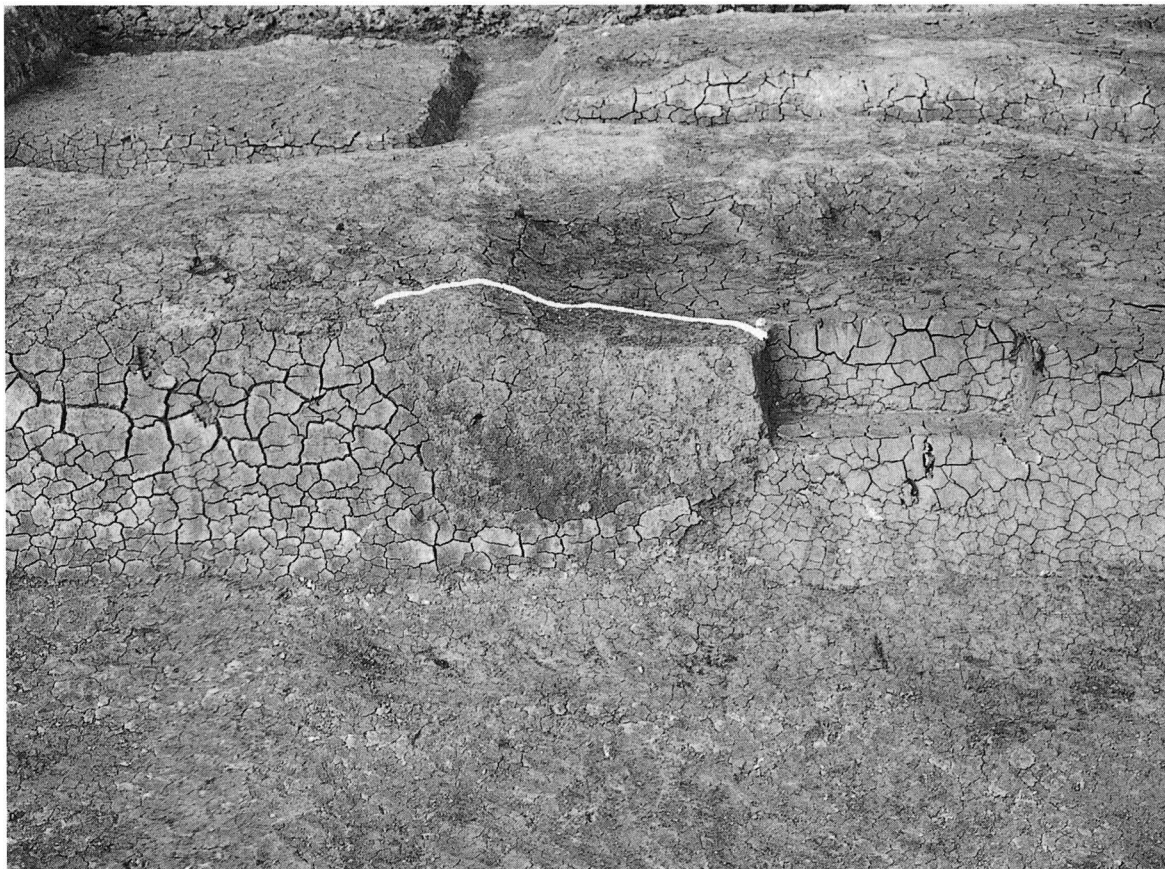


東側から



南側から

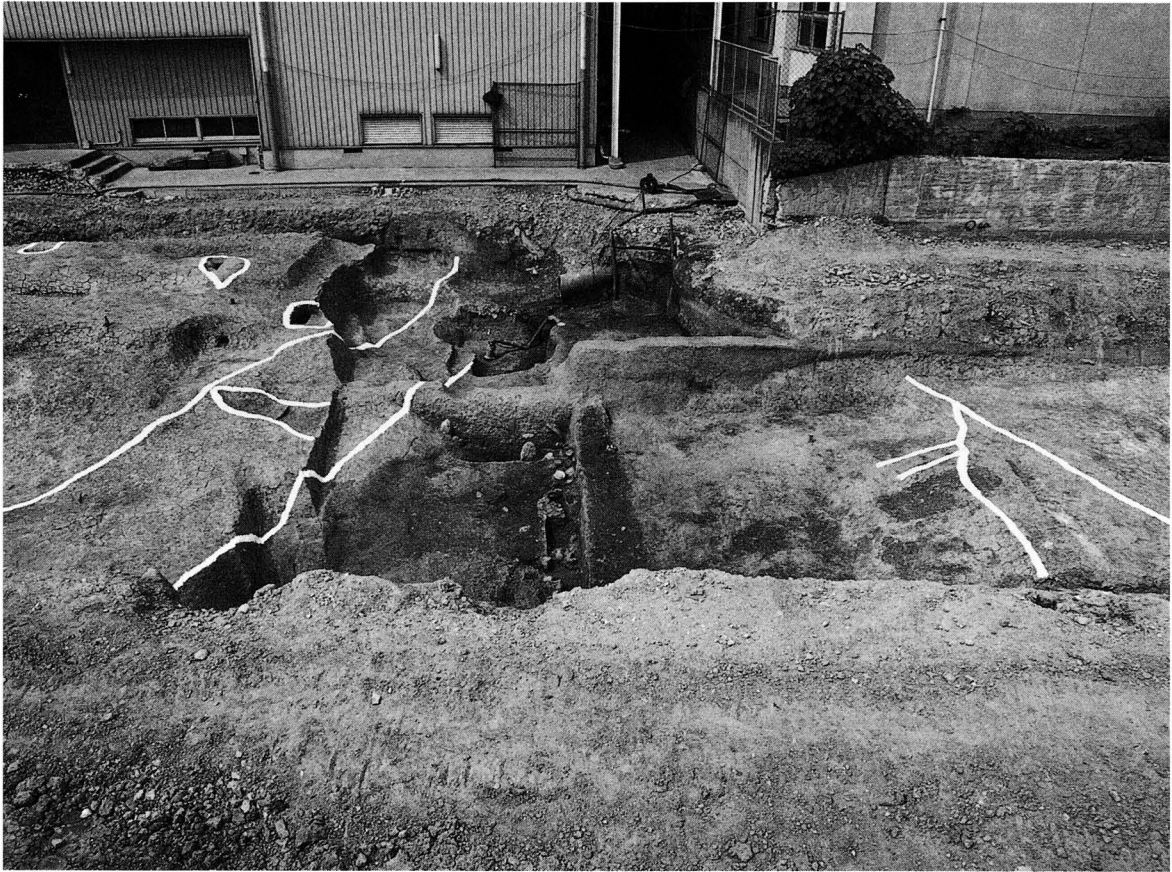
図版八 土坑一断面 集石遺構



土坑 1 断面



集石遺構



大溝全景



大溝掘削風景

図版一〇 大溝東西方向断面 南北方向断面



大溝東西方向断面



南北方向断面

図版一一 大溝底部 大溝底部遺物出土状況



大溝底部



大溝底部遺物出土状況

図版一二 大溝土器出土状況 (土器溜まり1) (土器溜まり2)



土器溜まり1



土器溜まり2

図版一三 遺物出土状況(炉壁)(瓦と炉壁)



炉壁

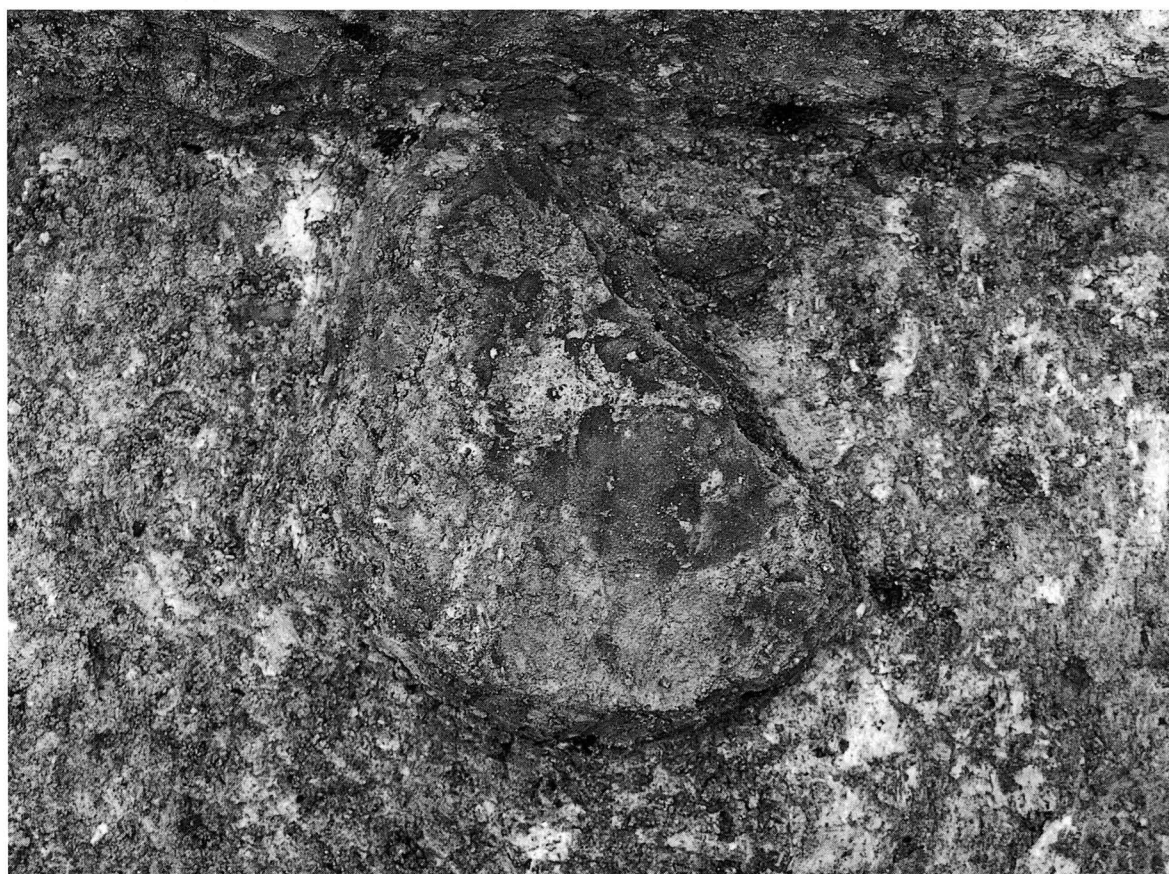


瓦と炉壁

図版一四 遺物出土状況（木片と炉壁）（鑄型）

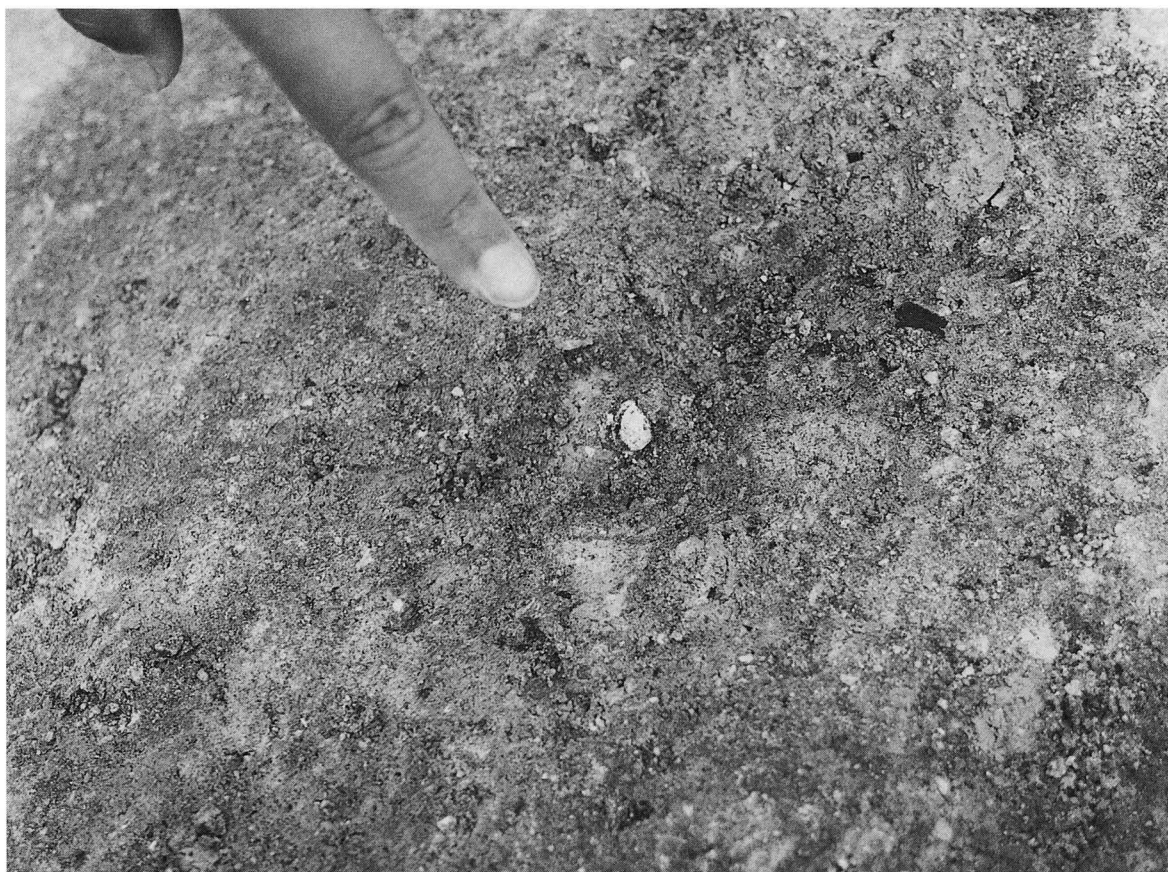


木片と炉壁



鑄型

図版一五 遺物出土状況（銅滓）（青銅素材）



銅滓



青銅素材

図版一六 大溝上層遺物出土状況 (仏花瓶) (獣骨)



仏花瓶



獣骨

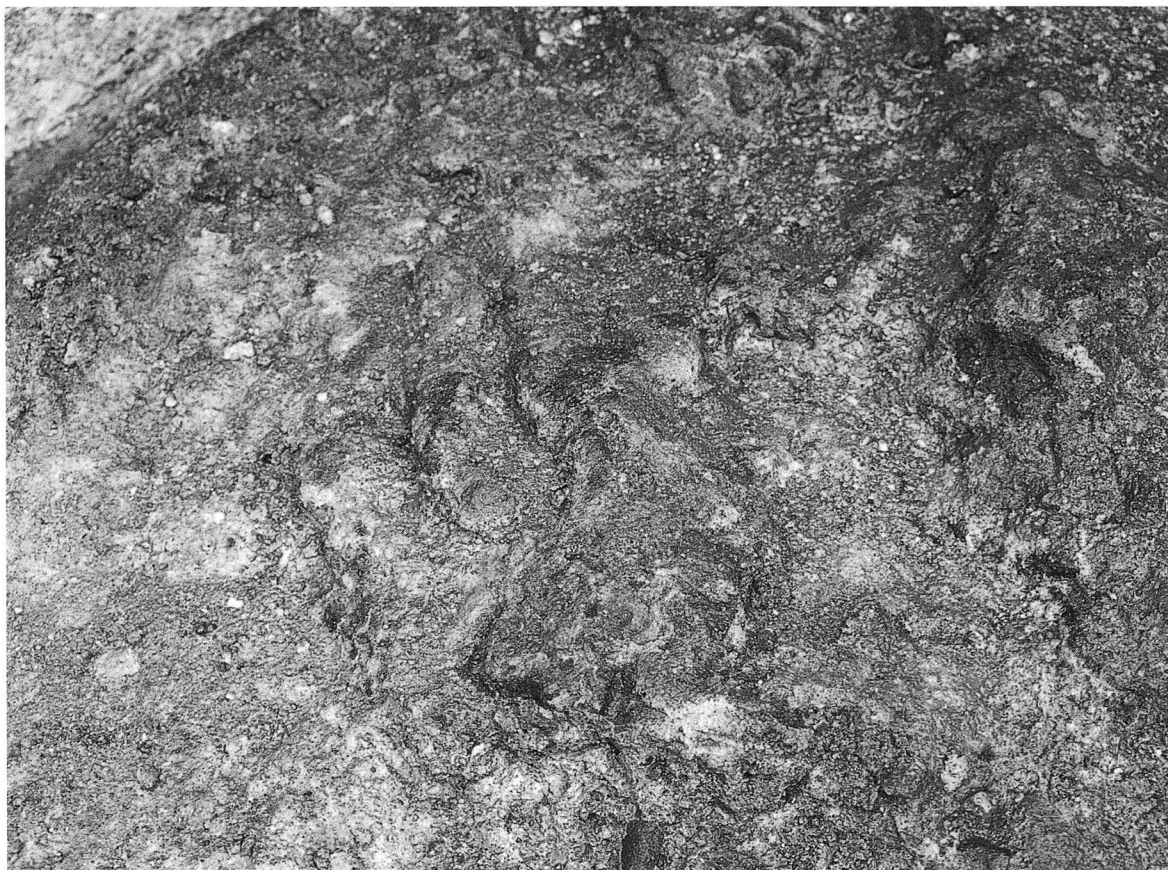


拡張部遠景



拡張部全景

図版一八 拡張部鑄型出土状況（上層）（下層）



上層



下層



図版一九 拡張部土層の断面剥ぎ取り（作業）（剥ぎ取り後）

作業



剥ぎ取り後

図版二〇 大溝掘削風景 中学生の見学風景



大溝掘削風景



中学生の見学風景

報告書抄録

ふりがな	たなべいせき							
書名	田辺遺跡							
副書名	国分中学校プール建設に伴う遺構編							
巻次								
シリーズ名	柏原市文化財概報							
シリーズ番号	1998-III							
編著者名	北野 重							
編集機関	柏原市教育委員会							
所在地	〒582-8555 大阪府柏原市安堂町1-43 TEL 0729-72-1501							
発行年月日	西暦1999年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
たなべいせき 田辺遺跡	かしわらしこくぶほんまち 柏原市国分本町	27221	TB96-2	34度 33分 40秒	135度 38分 45秒	19960801 ～ 19961007	350.0	プール建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
田辺遺跡	集落	飛鳥時代	溝	土師器、須恵器、 鉄滓、銅滓、鞆 羽口、溶解炉、 鋳型、瓦		飛鳥時代の金属 器生産工房址		

田 辺 遺 跡

— 国分中学校プール建設に伴う遺構編 —

1998年度

編集・発行 柏原市教育委員会

発行年月日 平成11年 3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

